

## わかもと製薬株式会社

### 2025年3月期決算および中期経営計画説明会 質疑応答要旨

**Q1：** 売上高は、24年度77億円に対し、25年度は100億円と意欲的な数値を見込んでいるが、どのような見通しなのか。

**A1：** 医薬事業においては、今年度初よりマキュエイドが出荷再開できたことから、通年で売上寄与します。また、新規事業である眼内レンズ（アクリバトリノバ Pro）を近々に販売開始するほか、乱視の軽減機能を有する多焦点眼内レンズ（アクリバトリノバ Pro トーリック）を年内に販売開始いたします。さらには、緑内障治療用タフチモ配合点眼液を6月に発売予定です。

ヘルスケア事業においては、「強力わかもと」のマーケティング戦略を拡大しながらユーザーの拡大を図ります。また、知覚過敏症状ケアの効能を加えてリニューアルした「アバンビーズ」シリーズを、SNS や LINE を通じて拡販していく予定です。さらには、「わかもと整腸薬」のデザインを「強力わかもと」の姉妹品であるということ強く訴求したパッケージに変更した事が、インバウンド客に好評で、インバウンド店舗で棚が拡大しております。

グローバル事業では、中国越境ECの拡大に注力する共に、シンガポールや香港等での知名度を活かした東南アジアでの越境EC拡大を検討しております。

これら各種施策により、売上伸長を図っていきたいと考えております。

**Q2：** 筆頭株主であるロート製薬との関係について教えてほしい。

**A2：** ロート製薬株式会社様とは、2020年4月に医療用眼科医薬品の共同開発ならびに販売、当社が有する乳酸菌を活用したOTC医薬品や健康食品の共同開発販売を主な提携分野を主とする包括的業務提携に合意し、それ以降、両社は対等且つ良好な関係のもと、様々な分野において提携の検討を推し進めてきております。今後もさらなる持続的な提携を図ってまいり、お客様や医療関係者の期待に応える製品とサービスを提供していきたいと考えております。なお、具体的な協業の内容については、発表できるタイミングで順次公表してまいります。

**Q3：** 中計1年目を振り返って、どのように評価しているか。

**A3：** まずは、これまでマキュエイドの出荷停止によりご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。マキュエイドの出荷再開がもっとも重要な課題でありましたが、品質管理体制、安定供給体制を整え、年度初から出荷再開できたことで、ようやくスタート台に戻ったと考えております。

この間に、ビジネス面では、①アクリバトリノバ Pro 承認（2024年9月）、②アクリバトリノバ Pro トーリック承認（2025年3月）、③「強力わかもと」の生産設備投資計画を機関決定・実行、④「アバンビーズシリーズ」、「わかもと整腸薬」

のリニューアル、⑤台湾における当社乳酸菌を用いたプロバイオティクス製品の発売、等を計画通り実施いたしました。

また、経営基盤では、①給与・人事評価制度の抜本的な見直し、②管理職の教育研修体制整備、③健康経営優良法人 2025（大規模法人部門）認定取得、④政策保有株式を純資産対比 15.9%まで圧縮、等を行いました。

中期経営計画 1 年目については、概ね計画通りの運営ができたと評価しております。

**Q4：** アバンビーズの CM を拝見し、購入に興味があるが、ドラッグストア等で置いていないので購入できない。御社の販売戦略はどのようになっているのか。

**A4：** 薬用歯磨き「アバンビーズ」は、大手のドラッグストアさんやネットでは販売しておりますが、ご指摘のとおり、お近くの店頭では見つからないというお声は伺っております。当社ホームページからもご購入いただけますが、今後、多くの皆様にお近くのドラッグストア等でお求めいただけるように努めておるところです。「アバンビーズ」は生きた乳酸菌を配合した当社独自の商品です。口臭ケアや知覚過敏症状のケアに対する効果をしっかり訴求していくことで、ドラッグストアでの展開、販売チャネルの多様化を図ってまいります。

**Q5：** 説明の中で人財育成が重要との話でしたが、従業員数も増やす事を考えているか。

**A5：** 中期経営計画で計画している様々な事業を実現するにあたっては、相応しい人材の確保が必要と考えております。眼内レンズについては専門人材を確保し、早期の商品化をリードしてきてもらいましたが、特に、新規事業分野においては、他社との競争に打ち勝ち、当社の事業価値を早期に拡大していくためには、プロフェッショナル人材の確保は不可欠であり、積極的に行っていきたいと考えております。

**Q6：** 研究開発について教えてほしい。

**A6：** 毎年の薬価改定により薬剤費抑制が進展する事業環境の中、持続的な企業価値向上には新薬を開発することが最重要課題です。当社は、医薬品に止まらず、医療機器の研究開発にも注力しております。現状の医薬関係のパイプラインですが、WP-1108 の早期承認を目指し、昨年度承認された眼内レンズとのシナジー効果を高めたいと考えております。医薬関係の研究開発の方針としては、眼科領域をターゲットとした医薬品、医療機器、サプリメント等の開発に注力してまいります。特にアンメットニーズに応えるためには、国内未承認薬や適応外使用薬等を開発していくことが重要と考えております。ヘルスケア事業の研究開発については乳酸菌を使った製品開発を行っていきます。製薬会社にとって、研究開発は重要であり、積極的な投資を行っていきます。